



天茶つ子

2021年11月6日(土)

天下茶屋小学校

校長 清原良一

※「100周年」式辞で、皆様に伝えたかった思いです。

不易と流行

皆さん、「不易と流行」という言葉を知っていますか？江戸時代の俳人、松尾芭蕉が提唱した言葉です。俳句の世界では趣向・表現に新奇な点がなく新古を超越した落ち着きのあるものが「不易」であり、そのときどきの時代の好みに従って斬新さを發揮したのが「流行」といえます。もともと俳諧における理念でしたが、その言葉は俳諧のみにとどまらず、いろいろな場で用いられるようになりました。つまり、「不易」とは昔から変わらない事柄や考え方ことで「流行」とは新しい時代にあった事柄や考え方を指します。そして、その二つの事項は私たちの学習や生活には欠くことができません。

私たちは日本に住んでいて大半の人は同じ言語を使い、「不易」の価値観を共有し生活を送っています。例えば、「挨拶をする・時間を守る・美化に努める・約束を守る。」などを特に重視しますが、それが基本的生活習慣の定着であり学校教育の大きな目標になっています。義務教育学校においてこれらのことを行えない学校は皆無だと思います。だから、共通の不易の価値観が生まれ物事が円滑に進むことが多いのです。

次に「流行」について考えてみることにします。例えば、現代の生活ではインターネットの発達で電子メールやラインを使うことが多くなってきています。これらは新しいものとして「流行」の部分です。さらに、まもなく「I o T（モノをつなぐインターネット）」が普通になり、スマホひとつで生活に必要なことの大半ができるようになる時代になると言われています。自動車にもA I（人工知能）が搭載され、運転は人の手を借りずとも、目的地を入力すれば乗っているだけで到着する時代はそう遠くありません。

ただし、コミュニケーションを図る時にどうしてもメールでは内容がよく伝わらないともどかしく思うことがあります。また、L I N Eなどで自分の意図としない事が拡散し、大きなトラブルに発展することもあります。かつては手紙などを書くときは、話す以上にきっちりと相手を尊重する基本的な「不易」のルールがありました。しかし、急速な時代の流れでそれをないがしろにして、便利さだけの「流行」を追い求めるあまり、日本人が昔から大事にしてきた「和を以って貴と為す」の精神がないがしろになっている場面が多々見られます。つまり、書き言葉は今後、伝達の中心になっていくことが必然になるにもかかわらず、大きく乱れているのが現代の課題なのです。

基本的な「不易」の部分を、今こそ再認識して「流行」の中にも取り入れ、より安全な社会を作りましょう。そうすればまもなく来るI o Tの時代に、L I N EなどのS NSやA I搭載機器もごく一般的なツールとして極めて安全かつ便利なものになっていくと思います。